

創刊のことば

平成29年度学科長

朝比奈 美知子

国際文化コミュニケーション学科は、平成12年4月以来17年にわたり実践的英語力と国際協力の精神を持つ人材の養成に尽力してきた英語コミュニケーション学科を発展的に改組した学科として、平成29年4月に開設された。本学科では、英語を含む2か国語以上の外国語力の養成と世界の文化に対する深い理解と教養の涵養を教育の両輪とし、言語と文化の素養を活かして世界で幅広く活躍できる人材を育てることを目指している。その教育研究分野は、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏および日本という複数の言語・文化領域にわたり、学科に配属された教員の専門分野は、これらの分野に加え、自然科学、児童文学、言語教育など多様を極めている。

『国際文化コミュニケーション研究』は、本学科所属の教員の研究成果の発表の場として創刊された。この研究紀要は、第一に、専門分野を異にする教員それぞれの研究領域の個別性を尊重し、自由な研究の場を保証することを目的とする。分野や組織の壁、あるいは評価や競争などの制約にとらわれず自由に研究成果を発表できる場を設け、維持することこそが、教育研究組織に豊かな学術研究の発想力をもたらすことを、我々は確信している。第二に、この紀要は、本学科が掲げる「国際文化コミュニケーション」を一つの学問あるいは研究領域として確立し発展させることを目的とする。そもそも「コミュニケーション」、「文化」は、言語、人文科学から、社会学、政治学、経済学、自然科学などにまで及ぶ広範な領域を有し、高度の多義性を孕む。我々は、各々の専門分野における研究を進めることと同時に、個々の研究を分野の壁を越えて結びうる学際的「コミュニケーション

ン」の可能性を探求することを企てようとしている。さらに、この紀要は、学科の教育研究に携わるすべての者が、自由な研究の交換を通じて問いかけあい、刺激しあい、啓発しあい、なおかつ、そのことにより個々人の研究の内発的な動機を新たに見出しうるような知的刺激の共有の場となるべきものである。

本学科は、それぞれが異なる文化的、学術的背景を持った教員の集まりである。その多文化性、多様性を活かしながら、自由かつ深く豊かな学術的コミュニケーションの可能性を拓くこと、それがこの紀要の目指すところである。